

※このページは印刷できません

# 野菜栽培ごよみ

種まき  
植えつけ  
収穫

品名	栽培ポイント	連作	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トマト	元肥は控えめ、わき芽は早めに摘む。1段目の実がピンポン玉位で追肥。	×												
ナス	1番花が咲く頃に、花の下1~2本のわき芽を残し3本仕立てに。	×												
キュウリ	5~6節以上から出た子づる、孫づるは本葉2枚を残してその先で摘む。	×												
ゴーヤー	種は傷をつけておくと発芽がよい。果実の緑色、白色が鮮やかなうちに収穫。	×												
スイカ	5~6節で摘芯し、勢いのよい子づるを3本伸ばす。受粉は早朝に行う。	×												
カボチャ	親づるを摘芯し3本仕立てとする、他の子づるはかき取る。	○												
ピーマン・シシトウ	ナスと同じく3本仕立てに。下のほうから早く出た側枝はかき取る。	×												
トウモロコシ	雄穂の花粉が雌穂によくつくために2条植えにする。種は1ヶ所に3粒まく。	○												
エダマメ	条間40cm、株間20cm、3粒播種の2本仕立て、摘芯はしない。	○												
インゲン	支柱は低い位置で交差させ、傾斜をゆるくして手が届きやすくする。	×												
オクラ	低温に弱いので植え付けは暖かくなってから。栄養不足だと花が頂部に咲く。	×												
エンドウ豆類	つるは折れやすく傷みやすいため、誘引、支柱立ては入念に行う。	×												
キャベツ	定植後1ヶ月後位と、結球始めの拳大の頃に追肥、収穫まで肥切れさせない。	×												
ハクサイ	定植時の植え込み防止としてポット育苗が適する。早播きは避ける。	×												
レタス	種は薄く光発芽性のため、種まき後の覆土は光が入るよう薄く均一にかける。	×												
ブロッコリー	株元が少し高くなるように植えつける。主花蕾を収穫した後、側花蕾を収穫。	×												
ホウレンソウ	酸性と排水不良を嫌うため石灰で酸土を矯正し、高畝にして排水性をよくする。	○												
ネギ	土壌の多湿に弱いため、畑に停滞水がないよう排水管理を行う。	○												
タマネギ	緑葉部が隠れるほど深植えすると伸びが悪い。収穫は晴天の日に行う。	○												
ニラ	夏になると「とう立ち」してくるので、早めに摘み取り株疲れを防ぐ。	○												
アスパラガス	収穫は3年目から。強い芽が出ている間に収穫をやめ、翌年の養分を蓄える。	×												
ズッキーニ	側枝の発生が少ないため、親づるの摘芯はせず整枝の必要もない。	○												
ミズナ	良品を得るためには水を多く与える。枝分かれの速度が早いので追肥は早めに。	○												
セルリー	肥切れさせないことが良品を得るための基本。黄変した外葉はかき取る。	×												
ショウガ	充実度のよい種ショウガを選び、50gくらいの大きさに分割し植えつける。	×												
ダイコン	種まきはそれぞれの品種の適期に行う。収穫が遅れると「す入り」になる。	○												
ニンジン	発芽を揃えるため、降雨後または灌水後十分に水分がある時に種をまく。	○												
サツマイモ	野菜畑なら無肥料でもよいが、肥えやせ、つるの伸び具合をみて追肥する。	○												
ジャガイモ	植えつけ後、たくさん芽が伸びてくるので勢いのある2本を残し、他は取り除く。	×												
サトイモ	地際から発生する新芽は土寄せのとき倒して土で埋める。	×												